

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3471501803		
法人名	株式会社 ハートランド		
事業所名	ハッピーハート		
所在地 (電話番号)	広島県福山市高西町三丁目10-21 (電話) 084-930-4703		
評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6番29号		
訪問調査日	H21年 4月15日	評価確定日	H21年 5月13日

## 【情報提供票より】(H21年 2月28日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 15.4 人	

## (2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築
建物構造	木造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(2月 28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 73 歳	最高 92 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西福山病院 ・ 石井外科整形外科眼科医院 ・ 吉岡歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ハッピーハート」は、株式会社が母体である。福山市の西部に位置し、隣の市との境目である。美しい河川沿いに立地された、1階建ての平屋建である。"洋"を基調とした建物であり、全館には天窓を使用するなど陽光が降り注ぐ明かり環境設計となっている。併設の居宅事業所との連携を密に行い、地域ニーズに合致したサービス提供をしている。理念として、「地域の中でその人らしく生活することを支えていく」という考え方のもと、運営されているのが特徴である。職員一人ひとりが運営理念のもと、日々の支援に活かしているのが伺えた。職員配置として看護職員の体制が整っているなか、医療機関との連携を密に行い、サービス提供されている。なお活発な地域交流をする中で、ホームとしての役割を担う努力もされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価時に関しても大きな改善課題はみられていない。ホーム独自の理念を中心として、常に課題を掲げて、改善のために、評価・実施を行っている状況である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホームとして「評価又は改善することで、施設の向上につながる」という考え方をもってしている。職員一人ひとりが自己評価の意義あるいは目的をもって評価を活用されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員の参加のもと、2ヶ月に1回実施している。内容としては、ホームの現状を知って頂くことを中心に、さまざまな機関が集まる中で意見交換を行っている。また、参加者からの意見や要望などの積極的な提案もあり、それらを活かしたサービスの質の向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へは、毎月の郵送でホーム便りと生活状況用紙を送付している。家族が来訪した際には、一人ひとりの"生の声"を聴く努力がされており、その意見などを活かし入居者個々の支援または運営の改善に役立てている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携については、町内会の運動会や文化祭への出展や出席を通じて参加している。また障害者施設とお茶会なども積極的に行うなか、近隣からの差し入れもあり、地域との連携は深いものとなっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念としては、「地域の中でその人らしく生活することを支えていく」ことを指針として、運営されている。また、ミーティングなどの機会を通じて、全職員で自己点検に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営方針などは、採用時に個々の職員に説明されており、よく理解されている。全職員がミーティングなどの機会を通じて、確認などを行い日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での運動会や文化祭などには作品の出展をしたり、利用者と職員がともに積極的に出席されている。また、町内会に加入し、溝掃除などの活動などにも参加しながら、地域住民の一員としての役割を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は、全職員で取り組み質の確保に活用している。「評価をし、改善点を見つけることはホームの向上につながる」という考え方のもと、積極的に外部評価などを取り入れ、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、内容としてはホームの現状報告や情報交換以外に、参加された皆様からの素直な意見や要望を引き出した、様々な話し合いを行なっている。その話し合いの結果を今後のサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、随時連携を取り合い、その中で情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況に関しては、必要時の電話連絡や毎月、広報誌に各担当職員がコメントを記入し、家族にお伝えしている。また、金銭管理に関しては、ホームが立て替え領収書を添付し、毎月報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情などに関しては、玄関に苦情箱の設置や家族訪問時等、随時話し合いをする場面を設けており、不満などがあつた場合は、必ず職員全体で話し合いをもち、改善につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各職員が申し送りを中心に、利用者の把握を行っている。また、引き継ぎ期間(1ヶ月)を設けて、スムーズな引き継ぎを行い、利用者・家族が困らない体制作りを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や会議など積極的に参加しており、復命書で研修内容の報告、回覧を行い情報の共有化をするなど人材育成への取り組みがなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修などの研修者の受け入れを行い、職員の参加を推進している。また、日頃より他の圏域事業所との情報交換や職員交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>必ず見学に来て頂き、他の事業所(居宅サービスやケアマネジャー)との連携を図るなか、出来る限りの情報収集を行っている。自宅と同じ雰囲気生活してもらうように、使い慣れた家具等を持ち込み、新規入居時に不適應をおこさないように配慮された支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、なにごとにも本人との話し合いを基礎とし、本人と共に過ごし支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>事業所独自の「地域の中でその人らしく生活することを支えていく」理念を実現するために、「利用者に寄り添い、そして一緒に育む」という利用者本位の支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居開始のプラン作成時より、必ず本人の希望・家族の希望を聞き介護計画に反映させている。それらをもとに、本人に適したプランの作成を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度見直しを行っている。また、状態に変化などがみられた時には、随時モニタリングなどを行い、変更・修正などを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援は、その時節や、状況などにより、行き先や内容などを柔軟に変化させ実施されていた。通院介助や生活支援(結婚式への参加)など、本人の希望に応じた個別支援がされていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	まず、入居時に、かかりつけ医の説明をしっかりと行い、本人・家族に同意をして頂いた上での対応を行っている。また、疾患別に対応の病院を分けるなど、専門分野での受診が行える体制を整えている。看護体制が整っているなか、緊急(急変時)への対応が整備されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期などの考え方は、家族と入居等に十分に話し合いをもち、本人・家族の意見を尊重し、書面を頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングを通して個人情報やプライバシーについての確認を行い、利用者の人権・権利を意識しながら日々の業務に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、大きな一日の流れはあるものの、個人の希望に沿いながらの対応を行っている。また、個人の要望などは、柔軟な対応が行えるように随時対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、外注食からの調理されたものを利用者・職員が食されている。また、それ以外にはおやつ作りなどを通じて、食事を楽しむ環境が整っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、利用者の状況に合わせての対応を行っている。入浴時は、時間を気にせず、ゆったりと入って頂くよう、その都度の入浴の満足度をあげるよう支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の文化祭などへ出品する作品作りなどが、行われている。本人の能力に応じ、日めくりカレンダーや創作品、洗濯物たたみなどしていただいている。ケアの視点でもあるように”本人の可能性を奪わない”支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は、その時節や、状況などにより、安全面に考慮しながら、行き先や内容などを柔軟に変化させ実施されていた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個々の利用者の状況を把握し、日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施している。緊急時の対応などの確認を行うなか、毎日の火元の点検を実施している。避難場所として、近隣のグループホームやコミュニティセンターを確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量の把握のために記録を行っている。10:00と15:00におやつ時間を設けており、水分確保をしている。また、栄養に関しても、常に時間や、形態などの考慮を行いながらの対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を使用し、ホーム全体に彩光が取り入れられる明るい設計になっている。馴染みやすい備品の使用により、居心地良く過ごせるよう環境調整している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、危険物以外はすべて持ち込みができるように配慮しながら、個々の利用者の馴染みのあるものを中心として、居心地のよい空間ができている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>理念の基づく運営</b> </div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の中でその人らしく生活することを支えていく」為の指針として、理念については、全職員がミーティング等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全職員がミーティング等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居前の家族への説明や運営推進会議などで事業所の役割等の説明は行っている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	日頃の挨拶はもちろん、散歩や買い物に出かけ、近所の人達との関係を深めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として、町内会に加入し、行事等には利用者とともに積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の民生委員の会合や運営推進会議などを通じて、必要に応じて事業所での成果や役割の検討を行っている。</p>		
<p>3 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しに活かすようにしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、報告や情報交換以外に、参加者からの率直な意見を引き出し、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>		
9	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町が行う認知症介護予防教室などへの協力依頼の受託を行っている。また日頃より、窓口担当者との情報交換も行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者、家族等に成年後見人制度などについて情報を提供している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常よりミーティング等を通じて虐待防止に向けての周知徹底を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に契約書・重要事項説明書により丁寧に 行い、また利用者及び家族の立場で、将来のこ とも含めて疑問等を引き出して説明を行ってい る。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>常日頃から利用者の本人の意見を引き出せる対 応を心がけている。また運営推進会議への利用 者参加を行っている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる。</p>	<p>家族との訪問時の交流を心がけている。また月 に1回の健康状態や生活状態の報告を手紙で行 っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議、意見箱の設置などにより、意見 や苦情への対応に取り組んでいる。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を 設け、反映させている。</p>	<p>勉強会や月1回のミーティング等で意見交換を 実施している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている。</p>	<p>利用者と職員との馴染みの関係が継続できるよ う勤務調整や配置を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	<b>職員調整は最小限とし、引継ぎ期間を設けスムーズな勤務調整を行っている</b>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	<b>日常的に学ぶことを推進しながらも、研修・会議等への参加機会を設けている。</b>		
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	<b>日頃より、近隣のグループホームや他の圏域のグループホームとの情報交換や職員交流を行い、サービスの向上に役立っている。</b>		
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	<b>日頃から職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景を理解してゆくようにしている。職員用意見箱の設置、個別面談等をしている。 マッサージチェアを設置している。</b>		
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	<b>職場での評価のみではなく、職員各自がステップアップしてゆけるよう、資格取得への協力や研修会への参加奨励を行っている。</b>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	<b>本人の状況など、必ず面接や聞き取りにより行っている。</b>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の視点や社会的視点での状況把握を面接や情報収集により行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族・本人・支援者の情報収集を速やかに行い必要な支援の検討や相談を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	できる限りの情報収集を行ったうえで、利用者の状況にあった入居方法を家族や本人と検討している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化などについて教えてもらう場を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や手紙の送付などにより、家族との情報交換を密に行い、本人の状況の理解の共有を図っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	行事への参加を呼びかけたり、スムーズな面会支援を心がけ、家族との交流機会の増加や維持に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の入居前の理解を深め、家族の写真などを居室においたりして関係の継続を支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性についての状況把握に努め、職員間で共有できるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	形式的ではなく、情報提供や面談などを必要に応じ実施している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声かけや見守りに重点を置き、本人の意向や希望が把握できるように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の自宅訪問や面談、また入居後の本人・関係者からの聞き取りを行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活状況の把握を行いながら、本人の能力や認知力などを総合的に考察し、援助の指針としている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や関係者の意向や意見、アイデアを反映しながら本人本意の計画作成に努めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングを実施し、必要に応じた見直しを実施している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録や生活記録などを利用し、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況に応じた通院介助や外出支援、生活支援を実施できるよう取り組んでいる。		
----	---	--	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ピアノ・傾聴などのボランティアの協力や民生委員などとの情報交換を行っている。		
----	--	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	<p>他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>訪問理美容サービスや福祉用具事業者の訪問支援を利用したり、またホーム以外の介護や保健医療サービスの情報把握に努めている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を継続している。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>本人・家族等と受診先や通院方法、情報提供についての検討を実施しながら対応している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>精神科への通院や往診など必要に応じて実施している。</p>		
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>ホームに2名の常勤准看護師を配置し、日々の健康管理や地域医療との連携を行っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>家族等とも協働しながら医療機関と三者一体となり退院を目指している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明を行っている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度者や終末期の利用者を支えられるよう、業務の調整や職員の理解を深めながら、医療者や家族等の協力体制が得られる取り組みを実施している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>事前の情報収集や情報提供には十分な注意を払い、スムーズな移行が行えるよう支援している。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>ミーティングを通して個人情報やプライバシーについての確認を行いながら日々の業務に取り組んでいる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の中で、自己決定が図りやすいような対応を心がけている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者個々に合った生活のサポートを介護計画に取り込みながら、日々柔軟な対応が行えるよう取り組んでいる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の意向を基本にした着衣などの支援を行い、理美容もなるべく本人の意向を引き出しながらカットや毛染めなどを実施してもらっている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力や意欲に応じて、調理や片付けの手伝いなどを職員・利用者とともに実施している。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の好みの把握を行い、健康状態や食事とのバランスを図りながら、おやつや準備や買い物を実施している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、個々の能力にあった対応を個別に検討しながら排泄の援助を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	身体能力に合わせた入浴補助具の準備や声かけの工夫など、個々に合わせた入浴支援をおこなっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠状態の把握を行い、なるべく日中の活動を促して生活リズムを整えるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	まずは生活歴の把握を行い、現在の能力に合った役割や楽しみが実践できるよう誘導や声かけ・見守りを行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	能力や本人の希望を確認しながら、必要に応じての金銭の所持を行い、安心感や満足感が得られる支援を実施している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	安全面を考慮しながら、散歩やドライブ、買い物などに出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個々のニーズにこたえられるよう、利用者や家族等と相談し協力を得ながら実現に取り組んでいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	季節の手紙や職員の家族連絡などに本人の言葉を書いていただいたり、携帯電話の使用のサポートを行ったりと通信の支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方々の来所に対しては、なるべく自然な対応を心がけ、歓迎の気持ちを伝えるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員間で身体拘束についての利用者が受ける身体的・精神的弊害を理解し、拘束の無いケアを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者個々の行動を把握し、見守りや職員の連携により不要な鍵の使用を行わないよう取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	業務中の位置取りや職員の連携により、利用者の見守りや把握を実施している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じた危険物等に対する対応を検討し、職員間で共有して対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故対応マニュアルの作成・配布、訓練の実施を行っている。また個々の状態により予測される事故の徹底を日々の申し送りなどで共有している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	夜間の急変や事故発生時の連絡方法や対応方法などマニュアルを作製・配布し周知徹底を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>マニュアルの作成・配布を行い、年2回の防火訓練の実施・防災器具の点検、毎日の火元の点検を実施している。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>家族等と普段からの関係作りを基盤に、個々の有するリスクについての共有を面会時や電話連絡等で行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタルチェックを基本に、定期通院の支援や日々の観察・記録により、必要に応じた早期治療に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>治療状況や服薬状況が把握できるよう書類を整備し、内容の理解共有を行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の生活の中で食事や水分・運動推進のサポートを行い、排泄の支援を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>必要に応じた口腔ケアの実施、歯科治療の介入を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分量の状態把握のための記録を行いながら，必要な調整を行っている。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>事業所内で起こりうる感染症についてのマニュアルを作成し，職員への周知徹底や外部研修への参加などで予防・対策に努めている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所や食材の管理の担当者を取り決め，ミーティング等を通して，衛生管理を実施している。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>派手すぎず地味すぎずを目指して，親しみやすい環境整備を心がけている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みやすい備品の配置や採光を心がけた対応を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや椅子の配置、スペースの作り方など、多岐な利用が図れる空間作りに取り組んでいる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の意向を大切にしながら、自宅で使い慣れた馴染みの備品や布団を持ち込んでもらい、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や室温調整は日常業務に位置づけ、常に気配りを行っている。各居室やホールに温度計を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自発的な活動意欲が向上するような、個々の能力に応じた環境整備に取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱を招くような環境の因子を把握し、速やかな修正を行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	芝生や花壇、鉢植えを整備し、草取りや水やりなどの活動場面のセッティングなどを行っている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>理念の基づく運営</b> </div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の中でその人らしく生活することを支えていく」為の指針として、理念については、全職員がミーティング等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全職員がミーティング等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居前の家族への説明や運営推進会議などで事業所の役割等の説明は行っている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日頃の挨拶はもちろん、散歩や買い物に出かけ、近所の人達との関係を深めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として、町内会に加入し、行事等には利用者とともに積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の民生委員の会合や運営推進会議などを通じて、必要に応じて事業所での成果や役割の検討を行っている。</p>		
<p>3 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しに活かすようにしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、報告や情報交換以外に、参加者からの率直な意見を引き出し、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>		
9	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町が行う認知症介護予防教室などへの協力依頼の受託を行っている。また日頃より、窓口担当者との情報交換も行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者、家族等に成年後見人制度などについて情報を提供している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常よりミーティング等を通じて虐待防止に向けての周知徹底を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に契約書・重要事項説明書により丁寧に行い、また利用者及び家族の立場で、将来のことも含めて疑問等を引き出して説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>常日頃から利用者の本人の意見を引き出せる対応を心がけている。また運営推進会議への利用者参加を行っている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族との訪問時の交流を心がけている。また月に1回の健康状態や生活状態の報告を手紙で行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議、意見箱の設置などにより、意見や苦情への対応に取り組んでいる。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>勉強会や月1回のミーティング等で意見交換を実施している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者と職員との馴染みの関係が継続できるよう勤務調整や配置を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員調整は最小限とし、引継ぎ期間を設けスムーズな勤務調整を行っている</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>日常的に学ぶことを推進しながらも、研修・会議等への参加機会を設けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>日頃より、近隣のグループホームや他の圏域のグループホームとの情報交換や職員交流を行い、サービスの向上に役立っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日頃から職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景を理解してゆくようにしている。職員用意見箱の設置、個別面談等をしている。            マッサージチェアを設置している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職場での評価のみではなく、職員各自がステップアップしてゆけるよう、資格取得への協力や研修会への参加奨励を行っている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人の状況など、必ず面接や聞き取りにより行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の視点や社会的視点での状況把握を面接や情報収集により行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族・本人・支援者の情報収集を速やかに行い必要な支援の検討や相談を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	できる限りの情報収集を行ったうえで、利用者の状況にあった入居方法を家族や本人と検討している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化などについて教えてもらう場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や手紙の送付などにより、家族との情報交換を密に行い、本人の状況の理解の共有を図っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	行事への参加を呼びかけたり、スムーズな面会支援を心がけ、家族との交流機会の増加や維持に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者の入居前の理解を深め、家族の写真などを居室においたりして関係の継続を支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の関係性についての状況把握に努め、職員間で共有できるようにしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>形式的ではなく、情報提供や面談などを必要に応じ実施している。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のかかわりの中で声かけや見守りに重点を置き、本人の意向や希望が把握できるように努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前の自宅訪問や面談、また入居後の本人・関係者からの聞き取りを行っている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>日々の生活状況の把握を行いながら、本人の能力や認知力などを総合的に考察し、援助の指針としている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や関係者の意向や意見、アイデアを反映しながら本人本意の計画作成に努めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングを実施し、必要に応じた見直しを実施している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録や生活記録などを利用し、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況に応じた通院介助や外出支援、生活支援を実施できるよう取り組んでいる。		
----	---	--	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ピアノ・傾聴などのボランティアの協力や民生委員などとの情報交換を行っている。		
----	--	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	<p>他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>訪問理美容サービスや福祉用具事業者の訪問支援を利用したり、またホーム以外の介護や保健医療サービスの情報把握に努めている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を継続している。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>本人・家族等と受診先や通院方法、情報提供についての検討を実施しながら対応している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>精神科への通院や往診など必要に応じて実施している。</p>		
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>ホームに3名の常勤准看護師を配置し、日々の健康管理や地域医療との連携を行っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>家族等とも協働しながら医療機関と三者一体となり退院を目指している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明を行っている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度者や終末期の利用者を支えられるよう、業務の調整や職員の理解を深めながら、医療者や家族等の協力体制が得られる取り組みを実施している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>事前の情報収集や情報提供には十分な注意を払い、スムーズな移行が行えるよう支援している。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>ミーティングを通して個人情報やプライバシーについての確認を行いながら日々の業務に取り組んでいる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の中で、自己決定が図りやすいような対応を心がけている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者個々に合った生活のサポートを介護計画に取り込みながら、日々柔軟な対応が行えるよう取り組んでいる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の意向を基本にした着衣などの支援を行い、理美容もなるべく本人の意向を引き出しながらカットや毛染めなどを実施してもらっている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力や意欲に応じて、調理や片付けの手伝いなどを職員・利用者とともに実施している。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の好みの把握を行い、健康状態や食事とのバランスを図りながら、おやつや準備や買い物を実施している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、個々の能力にあった対応を個別に検討しながら排泄の援助を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	身体能力に合わせた入浴補助具の準備や声かけの工夫など、個々に合わせた入浴支援をおこなっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠状態の把握を行い、なるべく日中の活動を促して生活リズムを整えるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	まずは生活歴の把握を行い、現在の能力に合った役割や楽しみが実践できるよう誘導や声かけ・見守りを行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	能力や本人の希望を確認しながら、必要に応じての金銭の所持を行い、安心感や満足感が得られる支援を実施している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	安全面を考慮しながら、散歩やドライブ、買い物などに出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個々のニーズにこたえられるよう、利用者や家族等と相談し協力を得ながら実現に取り組んでいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	季節の手紙や職員の家族連絡などに本人の言葉を書いていただいたり、携帯電話の使用のサポートを行ったりと通信の支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方々の来所に対しては、なるべく自然な対応を心がけ、歓迎の気持ちを伝えるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員間で身体拘束についての利用者が受ける身体的・精神的弊害を理解し、拘束の無いケアを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者個々の行動を把握し、見守りや職員の連携により不要な鍵の使用を行わないよう取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	業務中の位置取りや職員の連携により、利用者の見守りや把握を実施している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じた危険物等に対する対応を検討し、職員間で共有して対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故対応マニュアルの作成・配布、訓練の実施を行っている。また個々の状態により予測される事故の徹底を日々の申し送りなどで共有している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	夜間の急変や事故発生時の連絡方法や対応方法などマニュアルを作製・配布し周知徹底を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>マニュアルの作成・配布を行い、年2回の防火訓練の実施・防災器具の点検、毎日の火元の点検を実施している。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>家族等と普段からの関係作りを基盤に、個々の有するリスクについての共有を面会時や電話連絡等で行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタルチェックを基本に、定期通院の支援や日々の観察・記録により、必要に応じた早期治療に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>治療状況や服薬状況が把握できるよう書類を整備し、内容の理解共有を行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の生活の中で食事や水分・運動推進のサポートを行い、排泄の支援を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>必要に応じた口腔ケアの実施、歯科治療の介入を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分量の状態把握のための記録を行いながら，必要な調整を行っている。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>事業所内で起こりうる感染症についてのマニュアルを作成し，職員への周知徹底や外部研修への参加などで予防・対策に努めている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所や食材の管理の担当者を取り決め，ミーティング等を通して，衛生管理を実施している。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>派手すぎず地味すぎずを目指して，親しみやすい環境整備を心がけている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みやすい備品の配置や採光を心がけた対応を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや椅子の配置、スペースの作り方など、多岐な利用が図れる空間作りに取り組んでいる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の意向を大切にしながら、自宅で使い慣れた馴染みの備品や布団を持ち込んでもらい、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や室温調整は日常業務に位置づけ、常に気配りを行っている。 各居室やホールに温度計の設置を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自発的な活動意欲が向上するような、個々の能力に応じた環境整備に取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱を招くような環境の因子を把握し、速やかな修正を行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	芝生や花壇、鉢植えを整備し、草取りや水やりなどの活動場面のセッティングなどを行っている。畑を設け、季節の野菜作り等を行っている。		